

～IGR沿線地域でSDGsを学びませんか？～

平成31年地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】 採択課題

課題名：IGRいわて銀河鉄道を活用した持続可能な開発目標（SDGs）教育プログラムの開発

研究代表者：総合政策学部 准教授 山田佳奈

課題提案者：特定非営利活動法人 環境パートナーシップいわて

研究メンバー：渋谷 晃太郎 泉 桂子 宇佐美 誠史（総合政策学部）

技術キーワード：IGRいわて銀河鉄道、持続可能な開発目標（SDGs）、教育プログラム

▼研究の概要（背景・目標）

岩手県では人口減を背景に交流人口の確保が課題となっている。また、IGRいわて銀河鉄道（以下IGR）は、人口減による利用客の減少、3セク存続の困難、地域の疲弊という負のスパイラルを招く恐れがあり、交流人口の確保は必要である。

そこで本研究では修学旅行のテーマとして注目されつつある「持続可能な開発目標」（以下SDGs）に着目し、(1)これまでIGR沿線で行われてきた様々な取り組みに関するSDGsの視点からの再整理、および(2)SDGsに関心を持つ学校や企業等を対象とした、IGRを利用したSDGs紹介モデル作成を行い、県内外からの交流人口を確保することを目的とした。

▼研究の内容（方法・経過）



- ①SDGs活動の抽出：IGR沿線および近隣市町村で行われているSDGsに関連する活動の調査と整理
- ②IGRを利用したSDGs教育プログラムの検討
- ③SDGs紹介モデルの試行及び評価
- ④SDGs紹介モデルの提案

▼研究の成果（結論・考察）その1

①SDGs活動の抽出 より

●IGRのSDGs活動

- ・鉄道自体、自動車と比較して二酸化炭素排出量が減らせる輸送機関
- ・IGRの活動
⇒行政と協力したパークアンドライドの実施
⇒レンタサイクル（二次交通不足を補う）
⇒沿線のSDGs関連活動を観光商品として開発・実施

●盛岡市内およびIGR沿線のSDGs活動より
・リコージャパン株式会社 岩手支社のSDGs活動（SDGs目標は同社資料に基づく）



▼研究の成果（その2）SDGs紹介モデルの試行と提案（以下のSDGs目標は、IGR本社以外は本研究チームの整理による）

●「盛岡周辺お気軽SDGsツアー」の試行

＊2019年11月23日（兼ヒアリング調査）

・土曜日限定の半日ツアー

【IGR 盛岡駅】



↓ 徒歩15分 →

＜由井野菜園＞



【IGR 巣子駅】



↓ 徒歩10分 →

【IGR 青山駅】
（IGR本社にてSDGs活動の聞き取り：SDGs目標は同社資料に基づく）



↓ 徒歩10分 →

【IGR 盛岡駅】
↓ 徒歩10分 →
＜材木町 よ市＞



●「IGR一日堪能SDGsツアー」の試行

＊2020年3月14日

・IGRの「ホリデーフリーきっぷ」を活用した一日ツアー

【IGR 盛岡駅】



↓ 徒歩15分 →

＜商店街めぐり＞



↓ 徒歩15分 →

【IGR 奥中山高原駅】

＜産直等訪問＞



↓ 徒歩15分 →

【IGR 一戸駅】
＜いちのへ手技芸館・萬代館・商店めぐり＞



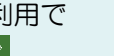
↓ 徒歩15分 →

【IGR 二戸駅】
＜戸城跡・商店街・産直・シビックセンター等＞



↓ 徒歩15分 →

＜コミュニティバス利用で二戸駅に戻る＞



↓ 徒歩15分 →

【IGR 盛岡駅】

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. IGR自体がSDGsに貢献していることから、今後、自治体やSDGs企業等と協力しSDGs地球温暖化防止対策としてパークアンドライド等が一層充実されることで、各地域の活動との相乗効果が期待できるだろう。
2. 今回の調査を通して、SDGsは関連セクターをつなぐツールとして活用できると考えられる。このことから、鉄道という交通手段がもつポテンシャルを活用しつつ、教育プログラムとしてSDGsの理念を積極的に組み入れることで、地域全体および次世代への継承が期待される。
3. 調査にご協力いただいた皆様、そしてIGRいわて銀河鉄道 濱戸氏には多忙中にもかかわらず多くの示唆をいただいた。厚く御礼申し上げます。